



芋の苗植え～学年の枠を越えて～

和気香風

グリーンパークで芋の苗植えを行いました。苗植えが実現できるまでずっと、保護者である東様が畝づくり、肥料まき、マルチ張り、植え方の指導等のお世話をしてくださいました。

苗植えは、2年生と5年生、1年生と6年生と、学年の枠を越えて一緒に植えていきました。小規模校ならではの取組です。下学年の様子を見守る高学年のあたたかい眼差し、表情。全くの抵抗感や緊張感なく、屈託のない笑顔をお兄さん・お姉さんに見せる1・2年生の姿。こうした子どもたちの姿そして体験の場を支えていただいていることに、感謝の念しかございません。



お世話をしてくださった東様



子どもたちの「瞳が輝く」授業づくりを! ～工夫した導入と発問で授業が変わる～

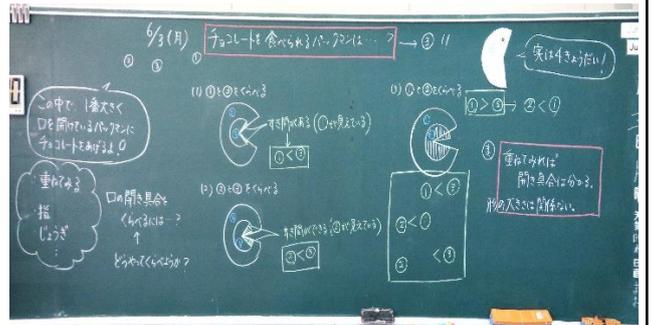
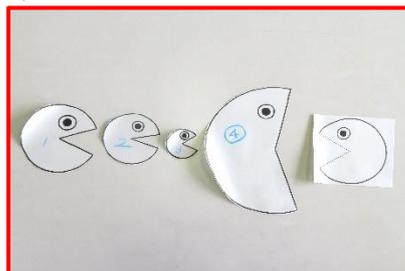
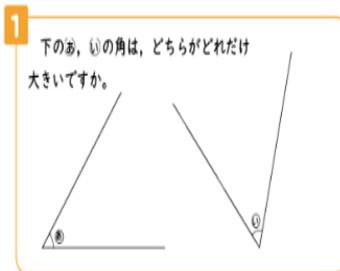
本校は、菊陽町教育委員会から学力向上の研究指定を受け、算数科の魅力ある授業づくりに取り組んでいます。子どもたちの「瞳が輝く」授業を目指して、全職員で研究を進めています。その研究内容の柱の一つが「工夫した導入と発問で授業を変える」ことです。つまり、「子どもたちがわくわくする授業のスタートを切るためにはどうするか」を研究しています。

先日の4年算数の授業(壽藤教諭)では、「パックマン」(世界で知られた日本産ゲームのキャラクター)が登場していました。一般的な角の大きさ比べの問題では、子どもの興味・関心が低いと考えた壽藤教諭は、「一番大きな口を開けたパックマンがチョコレートを食べることができる」と問題を設定しました。教室では、まず、パックマンが登場した驚きと楽しさが来て、その後「比べる」必然性が生まれ、そして、比べる「困難」が生じ、それを全体で共有することで「子どもが学びたい」ものへと変わっていきます。子どもたちは、実際に具体物(紙)で重ねたり、その方法や結果を友だちと対話したりしながら、楽しそうに課題を解決していきました。

加えて、「どこが違う?」「どうしたら比べられるの?」「こっちの方が顔が大きいから、大きいんじゃない?」「どこを合わせるの?」「Aさんの言ったことが言える人?」といった教師の発問で、子どもの考えを深めたり、広げたりしたことが、子どもたちの「わかった・できた・楽しかった」につながっています。

通常の導入問題

工夫した導入問題



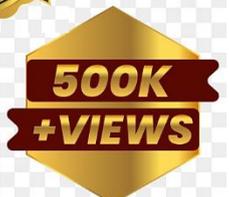
本校 HP へのアクセス、2 週間で 1 万件越え!

本校ホームページへのアクセス(閲覧数)が驚異的な伸びを見せています。なんと、**わずか2週間で1万件を超える閲覧**をいただいております。アクセス数を初めて記録したのが5月22日。それから2週間ぶりに見てみたら、なんと、**1万件を超えている**ではありませんか。思わず、桁を間違えているのではと何度も確認したところ。そして、通算の閲覧数は**51万件を超えて**いました。

どのような方々がご覧になられているのか、思いを馳せました。本校の保護者、地域の方々、伝統あるこの学校の卒業生、世界かんがい施設遺産の馬場楠井手の鼻ぐりに興味がある方、台湾をはじめ外国の方、様々な方がご覧になられているかと思えます。いずれにしても、多くの方々に本校の教育に関心を持っていただき、支えられていると思うと、校長として改めて身が引き締まる思いです。これからも、この菊陽の地において「和気香風」な育ちを見せる本校の教育を、積極的に発信してまいります。



2週間で



通算